

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	270500341		
法人名	株式会社五所川原ケアセンター		
事業所名	高齢者グループホーム憩いの家		
所在地 (電話番号)	〒037-0016 青森県五所川原市一ツ谷554番地10 (電話) 0173-33-4301		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 2月 8日	評価確定日	平成 21年 3月 17日

【情報提供票より】(平成20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 7月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 16.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	6,000~冬期12,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村内科医院、楠美泌尿器科、ひろし歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五所川原市の中核病院がすぐそばにあり、学校や保育所、個人病院、複合ショッピングセンターもあり好立地の環境であった。昨年は地域交流の一環として、夏祭りが盛大に開催され住民の参加数もかなりの人数であり地域交流がより一層深まった。畑がホームの裏と散歩で行ける距離のところの2箇所があり、冬期間以外は農作業にかかわり充実した生活が送られている。管理者も利用者本意に物事を見据え、サービスの質の向上に前向きに努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	身体拘束廃止マニュアルが未作成であったが、身体拘束のマニュアル作成を行いスタッフに周知している段階である。また新人への伝達をさらにスムーズに実践できるようさらに取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、スタッフ全員で自己評価に取り組まれている。疑問などはお互い確認し、評価の意義を理解されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の一員としてより一層ホームが地域に深く関わられるよう情報を提供している。施設内で実施している口腔体操や医療的援助等を報告し、助言等をいただいている。会議録からも活発な意見交換が行われていた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	家族からの要望や意見を取り入れ、面会時の面談も行われている。クリスマス会や行事の家族参加も多く家族が不安を抱かないよう交流が図られている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	夏祭りは地域と一番接する機会として受け止め、食券交換時は認知症パンフレットも配布しグループホームの周知を図っている。近隣の公園で開催し、ボランティアや地域住民の参加も多く盛大に行われた。地域との関わりを持つ意識は高い。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全員で確認し、各ユニット毎に話し合いをしているが、創設期の理念が掲げられており、地域密着に根ざした理念とはいえない。		地域との交流に積極的に取り組まれている現状を掲げた理念として、統一された新たな理念の構築を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやカンファレンス時等に確認し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	夏場は近所を散歩したり、スーパーへ買い物に出かけたりした際に挨拶を交わしている。しかし立ち寄っていただけのような状況はなく地域の社会的資源活用に関しては消極的である。		中学校など地域の社会的資源を活用しながら、交流を持てるような取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者及び職員は外部評価の意義を理解され、全員で評価に取り組まれている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に開催され、多くの方が出席されている。実際の業務内容の報告や課題を提起し活発に会議が運営されている。また会議録は詳細に記録されており閲覧できるようにされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の管理者は抱えている問題点について相談したり、問い合わせを行い現状の情報を提供し、一緒に解決に向けて取り組まれている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年の1月には社協の権利擁護担当職員を招いて研修をされており、権利擁護事業や後見制度について学んでいるが、十分な理解とはいえない。</p>		<p>制度理解に向けて今後も研修を行い、効果的に活用できるよう期待します。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者からの情報提供に加えて、職員間でも話し合い、虐待の防止に積極的に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には契約書及び重要事項説明書にて、利用者や家族が十分納得できるよう説明をしている。解約については入院時・退院時以外にも訪問し、行き先が決まるまで相談されている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	少なくとも月1回の面会があり、その際、家族に健康状態や普段の暮らしぶりを伝えている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に家族等から意見、苦情等が表出できるよう働きかけている。また、苦情箱を設置しているが、この1年間は相談、苦情がなかった。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時に利用者へのダメージがないよう普段から日常的にユニット間の交流を図り、他ユニットのスタッフとも馴染みの関係ができるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立案し、各職員がまんべんなく年1回以上は外部研修に参加している。しかし、認知症介護実践者研修(リーダー研修)を受講されていない。		認知症介護実践研修(実践リーダー研修)には日程等の調整のもと、受講され更なる質の向上を目指して欲しい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと取り組みや対応などについて、互いに話し合う機会が年3～4回あり、1回に2～4名が参加し、サービスの質の向上につなげている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学してもらったり、職員が自宅を訪問したりして徐々に慣れてもらい、サービス利用につなげている。また、自宅を訪問した際には、家族等の了解をいただいた上で、暮らしぶりを拝見し、入居後の環境づくりに役立っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	近くに畑があり、様々な野菜を作っている。そこで一緒に農作業をし、収穫をともに喜び、豊かな人間関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から定期的に情報を得ると共に、本人の行動等から察知し、思いや意向をできるだけ把握しようと努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人から意向確認ができない場合は、家族からの情報を含め面会時にも話し合い、生活歴等も考慮し、また職員間でも意見を出し合い計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>カンファレンスは毎月行われており、個人については年4回とその他はその都度見直しされている。また見直した援助内容は、利用者に対するアセスメントが的確に行われており効果的にケアが実践されている。</p>		
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>平成18年から3人枠で今現在も通所を受け入れている。ショートステイも受け入れた実績があり柔軟な支援を実践している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望があれば、その希望の病院への受診支援が行われている。その他歯科は随時、通院介助を行なっている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの実績があり、家族からも満足されたという言葉を受けている。しかし、反省点として携わる職員間や他医療機関との連携や情報交換が不十分であった。		看取りを行った実績があるが、今後、看取りをする上で既に終末期ケアに意欲的に取り組み実践している施設の見学等も行い、貴ホームの終末期ケアの更なる支援を期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時等は他利用者に聞こえないよう配慮し誘導している。個人のケース記録等に関する取り扱いについては、記録等を部外者に見られないよう保管し、プライバシーの確保に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や思いに配慮すると共に、一人ひとりのペースを大切にして対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、季節の旬の食材をメニューに取り入れている。また、畑で採れた野菜について会話をするなど、楽しい雰囲気です。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を取り入れた入浴を支援しているが、重度化している利用者の身体状況から鑑みると、てすり等が少なく、介護者の負担も懸念され、安全な入浴支援とはいえない。		利用者や職員の身体的負担の軽減を図るとともに、危険防止の為に手すりの位置等の検討し安全に援助できるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業に積極的に取り組んでいる。移動が困難な方は裏の畑に行くことができるように支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関から出るとすぐ川が流れており、その川のほとりをほぼ毎日散歩している。畑で作業ができる利用者は春から秋の収穫時期まで、農作業をしている。近くのスーパーには買い物にも出かけており多様な外出支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新聞等で関係する記事が出た時は、タイムリーに話し合いの場を設け管理者が身体拘束をしないという意識づけをしている。拘束されている状況はない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しないで対応されている。特に留意していることは不穏な行動がみられる利用者に対しては行動の観察を行い事故につながらないように対処している。また玄関には鈴が設置されており安全に配慮されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、地域へ積極的に声掛けし、地域の協力体制が得られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握がされており、嗜好等も考慮されており個人の状態や好みに合った支援がされている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルも整備されており、職員に周知し実践されている。帰宅時はうがい等もして予防に対応されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳に座ってテレビを近くで見られる場所や仲の良い利用者同士がくつろげる場所があり、居心地よく過ごせる空間作りがされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真や使い慣れた日用品が置いてあり、利用者が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		

 は、重点項目。